

特別委員会

事

業計画を展望して対処していくべき
駅東側の開発

広野駅東側開発整備事業は、住民説明会を平成24年5月から5回開催し、事業の中心になる3区域のうち、第一期整備エリアの農地転用が、農林水産省から許可されたこと。災害公営住宅は、埋蔵文化財調査に伴い事業が一時中断したが、平成25年7月中旬に事業を再開し平成26年9月完成を目指すという説明を受けました。

ほとんどが津波被災区域であり、農地転用の手続きと農振除外が必要であることから、第二期整備エリアに向け土地利用などに関し関係機関と調整中であり、一期・二期合わせた事業費は約15～16億円を見込むという説明を受けました。

委員会としては、白地地区の開発における住民からの生活再建を踏まえた土地買収要望について、今後の事業計画を展望して対処していくべきと提言しました。

再生可能エネルギーを活用した農産物の生産から販売までの六次産業を目指す近代農業ゾーンについて、六次化に取り組む企業等と協議し、第二期整備エリアを含む3区域とも

- ※1 1次・2次・3次の各産業分野において、自らの強みを生かして他産業にも分野を拡大し、または相互に連携・融合しながら付加価値を向上・創造する取り組みのこと
- ※2 農地を農地でなくすこと。住宅用地や工場用地、道路、山林などの用地に転換すること
- ※3 農地転用したい農地が農業振興地域の「農用地区域」に該当していた場合の申請のこと



富岡土木事務所の建設が進む駅東側

特別委員会

帰

町実態調査をすべき
町民の早期帰還に向けた取り組み

新潟県中越地震から復興・再生した新潟県長岡市山古志の視察研修を踏まえ、各委員から町民早期帰還に向けた意見を交わしました。

町民帰還者数のとらえ方は、帰町届け出の人数によるもので、町内における町民の生活実態は、昼は町内で農作業等の仕事をして、夜は仮設住宅や借り上げ住宅に戻るという生活をされている方が帰町届け出の2倍の約2000人弱ぐらいいると考えられます。

については、復興計画の見直し等を踏まえ、町民帰還への意識を高揚させることを念頭とした帰町実態調査をすべきと提言をしました。

新潟県山古志村が帰還を果たすとき「山古志に帰ろう」という村民の思いや絆が大きくなったことにかんがみ、広野町に帰って来てほしいという思いを込めたキャッチフレーズ、メッセージを考えては、との意見がありました。

＜新潟県長岡市視察研修＞

新潟県中越大地震からの復興に向けた取り組み

～帰町への課題を調査～



震災時の状況やそれ以降のまちづくりを学ぶ議員

新潟県長岡市山古志支所の視察・研修は、山古志住民会議、震災周年事業はじめ多くの教訓を学びました。歴史に前例ない原子力災害事故からの復旧・復興、再生に向け、国・県・双葉郡8町村との協議を確実に推進し、町民が望む、家族の幸せを確かなものにするため一歩一歩前進することが求められています。当時、新潟県山古志村が帰還を果たすと

き「山古志に帰ろう」という村民の思いや絆が大きき力となったことにかんがみ、町民早期帰還へ向けて様々な課題にしっかりと向き合い、一人一人着実に帰町頂けるための課題解決を図り、広野町に帰って来てほしいという思いを込めたキャッチフレーズ、メッセージを考えることは、今後のテーマとしてとらえたいと思います。

＜鳥取県大山町視察研修＞

全国町村議会広報紙コンクール特別優秀賞 大山町

～広報紙の編集姿勢と編集の理念を学ぶ～



広報の編集理念や方法を学ぶ委員

「議会だより だいせん」28号が今回の受賞紙であるが、若い町内企業家3人の力づよい表情の3枚の組写真を表紙に採用し、その対談特集まで掲載していること。独特のレイアウトをもって紙面を構成し、議会広報紙編集必要要件を高い編集センスと企画力をもって完成、発刊したこと。発行まで5回の委員会を開催し、細部におよぶチェック体制を7人の委員が徹底し

編集作業をしています。紙面レイアウト等一部形が変化しているところもあると思われるので改善が必要となると思われ、さらに読みやすく、大胆に興味のもてる紙面づくりに委員一同精励して行なうべくと再認識し、努力していくことを今回の研修の成果としてまとめます。

て行うこと。住民目線で読みやすい内容にすることに心がけ、議会の情報紙として位置づけし、より多くの住民に深く議会活動を理解してもらうような編集することなどの努力の結果だと思われた。

「議会だより ひろの」の編集も7人の委員で議会閉会後、1カ月以内の発行を目指して